

風かながわ

No. 150 神奈川県手話通訳問題研究会 (全通研支部)

98年 9月号 発行人/深海篤行 編集/広報部

今月号は記念すべき

第150号

だからおまけの
大増ページ!

学習の季節到来!

貴方はどれに参加する?

第12回神通研集会

来る9月20日(日)神奈川県民活動サポートセンターにおいて、当会最大のイベント第12回神通研集会が開かれます。

8月末で申込みは締め切られましたが、今年も例年のように盛況のようです。

司会者・助言者をはじめ、実行委員の方々も、集会当日に向けて、最後の調整にはいっているところです。

有意義な集会になることが、今から期待されます。

今回の設けられる分科会は以下の6つ。

- 第1 手話サークル
- 第2 手話通訳制度
- 第3 労働
- 第4 手話講習会のあり方
- 第5 聴覚障害者と医療
- 第6 入門ゼミナール

当日参加できない方も、後に発行される報告書で、是非内容を要チェック!

関ブロ集会

関東ブロック集会も今年で12回目。あなたも関東の仲間たちと熱く語り合ってみませんか?

日時: 10月31日(土) ~ 11月1日(日)

場所: 茨城県ひたちなか市

阿字ヶ浦クラブ

参加費: 宿泊費: 9,500円

集会参加費: 1,500円

分科会や参加申込み等、詳細に付きましたは、後ほど送付されるチラシをご覧ください。



神通研学習会

「手話を学ぼう学習会」PART 2

—よく観よ—

今年4回目となる学習会は、「手話を学ぼう学習会」のPART 2です。皆さんふって参加しましょう!

日時: 10月17日(土)

場所: 大和保健福祉センター

(小田急江ノ島線 鶴間駅近く)

詳細につきましては、今月号に同封のチラシをご覧ください。

めざす会 情報提供施設視察報告

「神奈川県ろうあセンターの聴覚障害者主体の運営をめざす会」（略称：「めざす会」）では、これまで、本年3月末の県知事への署名提出等をはじめとした運動を行ってきましたが、どうしても今後の方向性を明確に持ちきれない状況にありました。そのような中、去る6月に湘南国際村（葉山町）で行われた神聴協主催の幹部研修会において、神聴協より「ろうあセンターの管理運営の移管目標を、西暦2000年3月3日一耳の日とし」、「これに向けたタイムスケジュールを作成する」等、積極的な提案があり、これをきっかけに、より具体的な話し合いが進められるようになりました。

先日8月初旬、そのタイムスケジュール中の「視察」について、めざす会参加4団体（神聴協、中難聴、県バッチ協、神通研）の委員が3班に分かれ、各班1カ所ずつの「情報提供施設」の視察を行いました。

日程、場所、参加者は以下の通りです。

日程	場所	参加者
8/1, 2	京都市聴覚障害者情報文化センター いこいの村	坂上、堀家、河原（神聴協） 中森（中難聴）・福崎、小山田（県バッチ協） 竹内（神通研）
8/6, 7	熊本県聴覚障害者情報提供センター	黒崎（神聴協）・遠藤、栗原（中難聴） 吉田（県バッチ協）・稲垣（神通研）
8/8, 9	石川県聴覚障害者センター	村山（神聴協） 山崎、白澤（県バッチ協）・深海（神通研）

各施設とも、職員の方々から、事業、運営面の概要はもちろん、開所に至るまでの行政交渉、一般への啓発・学習活動、また資金調達活動等々、設立準備段階の様子をお聞きすることができ、地道な運動、また各関係団体間の信頼関係、結束の大切さを再確認しました。また、8月20日には、この3施設の視察をふまえて、神奈川県ろうあセンターにおいて、所長をはじめとした職員の方々からお話を聞く機会を持つことができました。

めざす会としては、従来毎月1回の会議開催を月2回とし、視察結果をもとに、「聴覚障害者主体のろうあセンター」のモデルプラン作成等、目標の2000年に向けてより具体的かつ積極的な活動を進めていく予定です。活動状況については、随時、風かながわ紙面等で会員の皆さんにお伝えしていきたいと思っております。

※ 風かながわ7月号「かながわ西～東」
“役員一泊研”の報告の訂正

第2部 上から7行目「めざす会と神通研」

「ろうあセンターは全県内をカバーしているので、神通研が対応している。」（誤）

「ろうあセンターは全県対象の聴覚障害専門施設であるべき（現状では全県をカバーしていない）と神通研は考えているため、対応をしている。」（正）



全国盲ろう者大会 あらかると

8月20日～23日、都内の日本青年館で「第8回全国盲ろう者大会」が開かれました。93名の盲ろう者を含む、428名の参加となりました。

◆開会式◆

開会式は20日の6時過ぎから盛大に始まりました。総合司会は神奈川盲ろう者ゆりの会設立準備会の堀江正一さん。

小島純朗理事長や来賓の挨拶に続き、参加している各地域の盲ろう者の名前が一人一人紹介されました。神奈川からも、会長の長谷川さんや、川崎の陶山さんをはじめ、12人の盲ろう者の名前が呼ばれました。

その後、秋田と栃木の盲ろう者の会が今年正式に発足したことが報告され、秋田の会長から「地域でがんばっていききたい」と力強い挨拶があり、大きな拍手が沸き起こりました。

こうして「第8回全国盲ろう者大会」は開会したのです。

◆分科会◆

今回の大会では、4つの分科会が開かれました。その中で神奈川の盲ろう者の活躍もめざましいものがありました。

『盲ろう者同士のコミュニケーション』

この分科会には堀江正一さんが発表者として参加。手話や指点字を覚えることにより、神奈川県内の盲ろう者同士のつながりができたことなどを話していました。また、手話を覚えた時の体験談なども合わせて話していました。

『今の盲ろう者福祉に対する要望・希望』

この分科会では陶山さんの発言が印象に残っています。

陶山さんは、盲ろう者の通訳介助者の少なさや「謝金の安さ」を取り上げ「手話や点字の技術を持っている人たちに、もっと盲ろう者の通訳介助者になってもらえるような制度作りが必要。」と述べ、フロアから大きな賛同を受けていました。

『地域の盲ろう者活動について語り合う』

ここでは、ゆりの会設立準備会会長の長谷川さんは、他の地域の盲ろう者の会の代表者たちとさまざまな意見交換を行い、「来年こそはゆりの会も正式発足にこぎ着けたい」と最後の懇親会での決意を新たにしていました。

『盲ろう者と手話』

盲ろう者にとってわかりやすい手話とは何かを話し合っていました。

◆友の会コーナー◆

今回初の試み、各地域の盲ろう者の集まりを紹介する「友の会コーナー」が登場しました。広島・石川・東京の指点字サークル、東京・静岡・若手、そして神奈川がそれぞれ模造紙に自分達の活動の様子を書いて紹介していました。

神奈川のゆりの会はクリスマス会や静岡盲ろう者友の会との一泊交流会の時の写真、触ってわかる絵などがあり、それらを説明する点字パンフレットが貼られていました。

◆その他◆

その他に毎年行われているツアーでは、21日はアクアラインを渡って千葉の鋸山へ。

22日には横浜ラポールと横浜ラーメン博物館へでかけて行きました。

そして、盲ろう者が作った作品を販売する展示販売会、盲ろう者が使いやすい用具機器の展示販売会も行われました。また、盲ろう児の保育も行われました。

◆最後に◆

最後の夜、4日間だけでは物足りないというように、談話室ではたくさんの参加者が遅くまで話していました。長谷川さんに「今回の大会はどうでしたか。」と聞いてみましたら、「ゆりの会の正式発足に苦勞している時に、秋田と栃木の会長に励まされ、がんばって行きたいと思います。」と話していました。

これからのゆりの会に是非期待したいと思います！



かながわ ホットライン

今回は「政見放送に手話通訳がつくようになったが・・・」というテーマです。今までに何回かとりあげたことのあるテーマですが、新鮮な意見も聞くことができました。今年の参議院選の政見放送を中心に伺いました。

◆ちらっちらっとしか見ていないのですが・・・。（手話通訳者の）手はなめらかに動いていて個性があるなあと思いました。その方々の雰囲気があるように思います。聴こえない人の立場から考えると、興味のある人は（専門的な）言葉がわかるのでしょうか・・・。政見放送を見て聴こえない人はどんな風にとらえているのだろうと思います。

（横浜市 S・Oさん）

◆手話技術に関しては差があるなあと感じました。それは手話を勉強する心構え等が違うからではないかと思えます。細かく通訳する人、大ざっぱに通訳する人がいました。政見放送などの専門用語の表現方法を統一するという方法もありますが、そうするところ者はその新しい言葉を勉強する必要がありますよね。

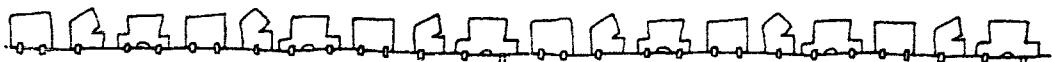
政見放送で、手話だけで内容を10

0%伝えるのは無理だと思います。いかに内容の60、70%を伝えるかということは可能だと思いますけれども。手話、口話、指文字、空書だけでは100%伝わりません。仮に表せたとしても、早くなってしまって今度はろう者が読めなくなってしまおうでしょう。手話通訳に100%全て内容を表してもらおうというのは無理だと思います。けれども、手話を見ていれば細かい事がわからなくても言おうとしていることが、内容が、なんとなく掴めるという通訳者がいます。それで良いのではないのでしょうか。

話し手によっては要約した方がいい人もいれば、そうでない人もいます。また政見放送での話の内容を把握しなければ。内容が分からないのでは通訳はできませんから。やはり勉強が必要なのです。

政見放送に手話通訳がついたのは良いですが、手話通訳者がどこまでこうした問題を考えそして勉強していくことが重要かと思いません。永遠の課題ですね。

こうした問題は普段の通訳の場面でも見られる課題だと思いますが、100%伝えられないにしても通訳にハートが込められているかどうかですね。通訳は対人間なので。良識、人間味、暖かみ、そしてさらにその上に「正しさ」というものがついてきます。いろ





いろな場面（通訳）で正しさを伝えるには、様々な勉強が必要なのです。

（藤沢市 中村 栄子さん）

◆手話通訳者によって表現が違いましたね。細かく表している人もいれば、大ざっぱに表している人もいるなあと思いました。ろう者はどの程度理解できているのでしょうか。

手話通訳者の位置は、本当は講演者の隣でやるべきだと思います。

（川崎市 Y・Sさん）

◆党によっては手話通訳がついていたり、ついていなかったりしていました。これは選挙法で党の希望でつけられるということになっているので仕方ないと思いますが……。ろう者は新聞の広報を読んで情報を得ることもできます。けれども文章が苦手な人にとっては、テレビの政見放送で手話通訳がついているということは大きいと思います。この前の政見放送とは違って、市長選の時の演説では、特定の候補者だけに手話通訳がついていました。これでは不公平です。ろう者は通訳がついていれば演説を見るでしょうが、ついていなければ他の演説は見ず、分からないでしょう。ろう者は選挙権をもっている一人なのだから、皆と同じ情

報を持って選挙に行けるようにならなければならないと思います。

また、最近はどう者が選管に自分たちの要求を出していますが、こういう運動を地道にやっていく必要があると思います。そしてもっと積極的にやっていかなくては。何度も何度も要求を出して行けば、選管も制度的に手話通訳をつけていこうかなと変わって行くのではないのでしょうか。まだほんの一部しか要求を出す必要性に気づいていない気がします。手話通訳者はそんなろう者のバックアップをしていく立場にあると思っています。

（川崎市 Mさん）

今回協力してくださった方、貴重なご意見、本当にありがとうございますございました。

次回のホットラインのテーマは「最近いろいろなアーティストが、歌に手話を付けて歌う姿が見受けられます。あなたは、『歌に手話を付けて歌うこと』をどう思いますか？」です。

たくさんのご意見をお待ちしています。ホットラインの投稿は下記までお願いします。

森下 摩利

グループ活動通信



手話通訳制度班

8月7日、19日の二日間、9月集会にむけ、班として分科会担当の内容について詳しく話し合いをしました。

集まりを通じて、課題とは別に各地での様子や情報提供など、話が次々に出されました。

「どのように対応している?」「うちではね…」と現場で労している者たちの会話はなかなか中味の厚いものようです。情報交換をする中で仲間として支え合う集まりとなってきたようです。

次回は、9月16日(水)

18:00～ろうあセンターにて

問い合わせ先

蛭川博美

手話講習会班

8月29日(土) サポートセンターにて、「8項目の虎の巻づくり」その4を行いました。

参加者11名で「手話」「福祉」について話し合いました。今回は、「各市で『障害者プラン』作成が進んでいるので、その資料を集めてみよう。」という宿題がでていました。

資料一冊1,000円で買ったけど、聴覚障害者関係はほとんど載ってません。という例もあって一同ビックリ、という場面もありました。

(参加者の声が寄せられていますので、次号にご紹介します)

次回は、10月3日(土)

13:00～サポートセンター

ボランティアコーナー

(10階または9階のあいているところ)

テーマ「8項目、福祉」

問い合わせ先

木村利江子

医療手話研究班

最近の様子は、今月号のグループ研究ストーリーをご覧ください。

次回は、9月12日(土)

18:00～サポートセンター
711号室です。

問い合わせ先

松崎理恵子

先月号「全通研学校」の補足

(外池 淑子)

紙面の都合で「ロールプレイ」の説明が不十分でしたので、手話通訳士指導者養成事業の資料より抜粋したものを参考にして下さい。この資料は、講師用にまとめられたものです。

「ロールプレイ」の進め方

手話通訳実践には、事例検討、ロールプレイ、レポート発表があり、ロールプレイの方法としては、

- ① ロールプレイとグループ討議
 - ・場面設定
 - ・役割分担
- ② グループ内でのまとめ
 - ・通訳過程に発生する心理的、社会的問題点を整理。
 - ・感じたことを自らの言葉で表現する
- ③ グループ報告
 - ・講師は報告される内容を把握しながら言及すべきことを整理しておく。
- ④ 講師コメント
 - ・「手話通訳実践力のポイント」を参考に話をする。
 - ・自らの体験を交えてコメントを行ってもよい。

(留意点)

- ・結論を押しつけてはいけない。
- ・問題を把握する姿勢に重点を置いたコメントを行う。
- ・問題を解決していこうとする姿勢に重点を置いたコメントを行う。

ひなん訓練



『風かながわ』150号記念特集

『風かながわ』も神通研会員と共に歩み、12年6ヶ月ついに150号を発行することになりました。そこで、今回150号記念として、会員が「風かながわ」のどの記事を楽しみにしているか？何を載せて欲しいのか？過去の記事で何が記憶に残っているのかを会員のアンケートを基にして解明し、紹介したいと思います。

■第一項目「最も興味深かった記事は？」

以下は、得票率順です。

①「会員インタビュー」 得票率 40%

理由…様々な人たちの、いろいろな考え方を
知ることができるから。

…初めて拝見するお名前も多く、参考
になります。

…知らない会員のことや、知ってる方の
個性などが見えて仲間意識を感じま
す。

…インタビューが全会員にいきわたる
のが楽しみです。

②「かながわホットライン」 得票率 20%

理由…バリアフリーの特集が、とても興味深
かったです。

③「電気通信講座・音声から 得票率 7% マルチメディアへ」

理由…ほとんどの方々は、あんまり分かっ
ていないんだろうなとも思っています
が、でもなれも大事ですよ。

④「グループ研究ストーリー」(No124)

理由…班の活動内容に興味を持ったので。

⑤「各地域(県・横浜・川崎)の通訳制度に ついて」 得票率 7%

⑥「全通研集會報告(奉仕員組入れ活動に ついて) 得票率 7%

⑦「通訳士」学習会報告 得票率 6%

⑧「会員リレーエッセイ」 得票率 6%

■第二項目「最もつまらなかった 記事は？」

①「特になし」

理由…サークル活動を続けていくと、視野が
狭くなりがちなので、いろんな情報があるのは嬉しいことです。

②「グループ活動通信」

理由…日時のお知らせだけでなく、広報部
員など第三者が参加をして取材をす
れば、また別の魅力を引き出せると
思うのですが。

③「電気通信講座・音声から マルチメディアへ」

理由…機械に弱いので、用語に拒否反応を
起こしています。

■第三項目「今後載せて(作って)欲しい コーナーはありますか？」

①「新しい手話や他地域の手話の紹介」

②「新しい表現、又はなるほどと思うような 手話単語の紹介(MIMIのような?)」

③「手話の勉強を始めて間もない人を対象 としたクイズコーナー」

④「健康問題・各地域での活動情報」

⑤「広域派遣の問題」

⑥「近県各支部の活動情報」

⑦「新聞や雑誌に載ったホットな話題」

⑧「以前、取り上げた記事のその後」

⑨「手話通訳者認定試験・受験希望者の ための情報コーナー」

⑩「ろう者に関するいろいろな イベント情報」

■第四項目「今までに無くなったコーナー で復活して欲しいコーナーはありますか？」

①「サークル訪問」

…新しいサークルの紹介など。

②「オー・マイ・ゴッド」

…大ヒット・コーナーでした。

③ 「My Book」

… ???

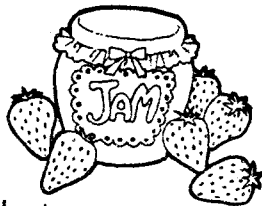
④ 「特派員報告」

… ???

⑤ 「グループ研究ストーリー」

…今もあるのかな？

(編)今月号に復帰してます、みなさん読んで下さいね。



■第五項目「『風かながわ』のページ数は何ページが適当ですか」

① 「現在のまま」

得票率 … 80%

理由…広報部員も大変と思いますので、ページ数はこのままでいいと思います

② 「5 ~ 8 ページ」

得票率 … 10%

理由…現在のページ数では作成する方の負担が大きいのでは……。

③ 「13 ~ 16ページ」

得票率 … 10%

理由…ページ数は多く欲しいとは思いますが、広報の苦勞を思うと何も言えません。

■第六項目「レギュラーコーナーの中で、よく読むものは何ですか」

① 「会員インタビュー」

得票率 … 20%

② 「ミニ情報」

得票率 … 15%

③ 「会員リレーエッセイ」

得票率 … 15%

④ 「かながわホットライン」

得票率 … 11%

⑤ 「グループ活動通信」

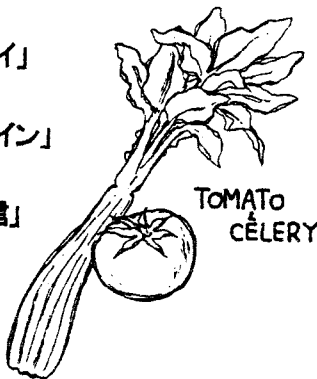
得票率 … 11%

⑥ 「かながわ西東」

得票率 … 11%

⑦ 「事務局より」

得票率 … 11%



⑧ 「グループ研究ストーリー」

得票率 … 6%

■第七項目「『風かながわ』に対する

要望等があればお願いします」

★ グループ活動通信は、内容をもっと詳しく書いて下さい。

★ 毎回、会員リレーエッセイが楽しみです。

★ ミニ情報に、もっとローカルな県内各市町村のイベントを載せて下さい。

★ いろいろな企画を神通研でやっている訳ですから、その内容が十分に伝わるように企画側からの総括を載せて欲しいです。(会員の声もいいのですが、偏ってしまうので……)

★ 私が神通研会員というだけで、「風かながわ」の字が小さくて読めないとか、別の人から集会参加者の名前が「風…」にでなければ集会に行くのになどと言われました。…相談窓口はないのですか。

★ 研修会への参加がままならないので、各種研修の報告をたくさん載せて欲しいです。(内容が分かるようなもの)

★ 会員みんなで会話できるようになるといいなと思います。

★ ページが込み入っていて、少し読みにくい気がする。

★ 情報量が多いのは、素晴らしいのですが出来ればもう少し行間があったほうが読みやすいです。

★ どなたがイラストを描くのか、毎回素晴らしい。又、レイアウトもきちんとなされて、読みやすく毎回楽しみにしています。

★ どうしたら会員から自発的な反応があるか、内容を考えるのに苦勞する。

【編集部より】

今回のアンケートの結果を見て分かったことは、「風かながわ」の役目は会員同士をつなぐパイプ役、そして必要な情報の提供だということです。ますます、その責任は重くなるばかりで、皆様の協力なくしては続けられません、今後ともよろしくお願い致します。

グループ研究ストーリー

『医療手話研究班・編』

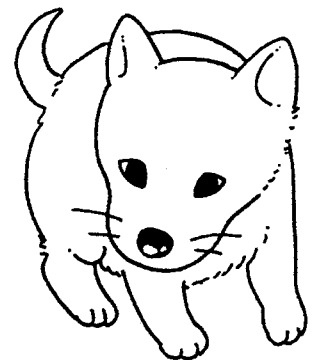
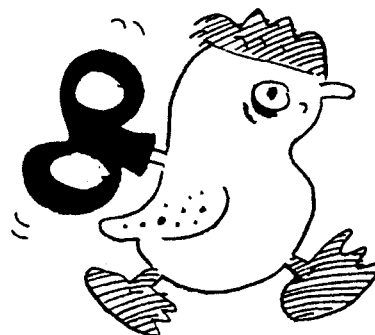
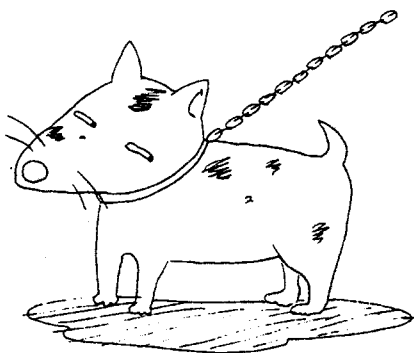
医療手話研究班が発足して、7年になります。2ヶ月に1回行われる定例会は、今も続いています。聴障者の医療体験を聞くことを中心にした年もあり、医療の手話にこだわらずに、広く聴障者の医療問題について皆で学習しています。

最近、医療ビデオを毎回見てきました。内容は医療の手話単語あり、簡単な問診の手話表現練習あり、成人病の理解と予防(患者用)など医療知識の学習あり、いろいろです。

定例会になかなか参加できないあなた、来る9月20日の神通研集会・第5分科会は、そんなあなたのために1日で7年分を体験できる分科会です。

基本にかえて、聴障者の体験から学び、医療環境の改善のために、私達に出来ることは何かを一緒に考えていきましょう。あなたの熱意と意見をお待ちしています。

[医療手話研究班 松崎理恵子]





会員リレーエッセイ



「M先生の思い出」 沢辺幸子さん

先日、デパートで買い物をしていたら後ろの方から「ポーズ」という声でした。振り返ってみると中・高校時代の友人が立っていた。じつは、私の学生時代のあだ名は、「坊主」だった。中学の時私は超ベリーショートヘア、まるでネギ坊主のようだったので入学式から1週間も経たないうちに私のあだ名は「坊主」に決定してしまった。その当時はこんなあだ名の女子中学生は他には居ないだろうなあと思っただけで特に恥ずかしいとは思わなかったが、成人してから言われると恥ずかしいやら、懐かしいやら複雑な気持ちである。久しぶりの再会を女子高生みたいにはしゃいで喜んでしまった。さっそく喫茶店で学生時代の思い出話。

特に二人の思い出の中で強く印象に残っているのはM先生の体育の授業のことだった。私達の通っていた学校はなぜか水泳の授業が厳しかった。中学1年でクロールと背泳ぎ、2年で平泳ぎ、3年でバタフライをマスター。卒業課題は100m個人メドレーだった。高校の卒業課題は200m個人メドレー、又は、100m個人メドレー（ただし制限時間が決まっていた。）のどちらかができないと卒業させないという方針だった。PTAから「厳しすぎる」とクレームもあったらしいが、M先生は、最後まで方針をつらぬいた。結果、私の同級生は全員個人メドレーができる。今考えてみるとすごいことである。もし私が体育教師だったら「1人または2人ぐらいは、カナヅチか、どうしても泳げない学生は、レポート提出か、何かで卒業を認めるだろう」と思う。M先生は、はじめから学生全員に個人

メドレーをマスターさせる自信があったのだろうか？

ところで再会した友人は、水泳が苦手であった。彼女が休み時間になるとプールで練習していたのを思い出す。ある時どうしても25m泳ぐことができずコース途中で立ち止まって泣いていると、M先生がひとこと「泣いていると、息つぎがうまくできないぞ！」友人は心の中で「オニ！」と叫びつつ練習をしたそうである。

もう一つ、私が知らなかったことを彼女ははなしてくれた。M先生は、もしかしたらプールに住んでいるのかしら？と思うぐらいに早朝でも放課後でも、いつプールに行っても必ずM先生が居た。休み時間に練習に来た学生に対しては、マンツーマンで指導していたそうだ。放課後、水泳部と一緒に練習していると、部員全員が応援してくれたとのこと。「あのときは、つらかったけど、まるで青春ドラマのように、青春してたわ」と懐かしそうにはなしてくれた。

私は、M先生は、自分の言ったことを実現させるために、学生をしごいているとんでもない教師だ！と今まで思っていたが、彼女の話聞いて感動してしまった。M先生は、私に学生時代は水泳をそして今、もう一つ大切なことを教えてくれた。M先生に感謝しつつあたたかい気持ちで、友人と別れた。

日常生活の中で、いやだと思ったりは、いっぱいあるけれど、私の気がつかない面がいっぱいあるのだろうと思ったのでした。

さて次回のリレーエッセイは、鎌倉市の岡崎裕子さんです。

会員インタビュー

三浦郡 白澤 和子さん

145

今回は白澤和子さん。この方なら「知っている!」と思う人は多いのでは?逗子市の専任手話通訳として働いていらっしゃる方です。詳しいお話しはこの後するとして、勉強不足の私は今年の「みんなの手話」(P22だったかな)を読ませていただきました。

白澤さんの声を電話で聞いた時、なんてハキハキした方なんだろうと思いました。きっとこの方は今、輝いているんだろうなというのが最初の印象でした。

現在、白澤さんが行っている手話活動は、というより、白澤さんのお仕事そのものが手話活動。市の専任通訳者として通訳現場、通訳者のコーディネーター、及び障害者のケースワーカーをやっていらっしゃる。「ケースワーカーをしていることは、孤立して暮らしている聞こえない人など手話通訳ニーズの掘り起こしができるので、大切な仕事と思っています。また、行政とのパイプ役でもあります。」と。そんな白澤さんの手話に出会ったきっかけは何でしょう?「夫の兄夫婦が聴覚障害者で『家族の中で手話のできる人間がないのが寂しくて心残りだ。あなたが手話をやってくれたらうれしい』兄が病床のベッドの上で本当に寂しそうに言ったことがきっかけです。」家族の中でさえ寂しさを感じるというつらさ。そんな時、お兄さんにとって白澤さんは一筋の光だったのではないのでしょうか。それでは、白澤さんが今まで手話を続けてきた最大の理由はなんなのでしょうか?それは手話講習会の最終日、講師だったろう者の言葉だったそうです。「皆さんは、手話をやめようと思えばいつでもやめられます。私たちにとってそれはとても寂しいことです。私たち聴覚障害者は一生手話をやめることはできないのですから!」この言葉は今の私を育ててくれました。」と白澤さん。「人の出会いのそれぞれを、たいせつに受け止めることが人間的な成長につながる」と言われている通り、このろう者の言葉を真っすぐに受け止めていらっしゃるように思います。

いまの関心事は政治や経済の先行きだそうです。「どんな時代でも社会的弱者は厳しい状況を強いられます。自らを訴えるこ

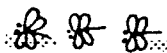
とのできない人たちが、少しでも暮らしやすい社会を作るには、私たちに何ができるのでしょうか。」こんな言葉を象徴するように、白澤さんのFAXのIDには「LOVE&PEACE」と書かれていました。

今はダイビングに夢中だそう。ダイバーの仲間も全国にいたりとか。「(海は)マンタやバラクーダからミリ単位のエビの仲間までが共存している美しい自然です。」「疲れた体や頭を癒してくれるのは自然が一番だと思っています。」とのことですが、お仕事が忙しい中趣味にも熱中して時間が足りないんじゃないでしょうか。そしたらやはり休日は「超多忙」の様子。「一人暮らしの実家の母の相手、日ごろゆっくりと話ができない友人たちとおしゃべり、家の掃除や草とり、研修会に参加したり、ダイビングに行ったり、1日のんびりと眠りたいと思いがからスケジュールは、土・日から埋まっています。」パワフル!ですね。

好きな芸能人はジャック・ニコルソン、アル・パチーノ、ダスティン・ホフマン。理想の男性は自分に忠実に生きていく人。そんな白澤さんはやはり、第一印象通り輝いている人でした。

最後にこの他に話しておきたいことは?という質問に対して答えてくださった言葉で、会員インタビューを終えたいと思います。白澤さん!積極的に答えてくださって本当にありがとうございました。「手話通訳者は、手話ができれば良いのではなく、多くの知識や趣味、興味をもつことなどから、現場での瞬時の知恵、幅広い選択肢をもてることにつながると思うのです。さりとて覚えることより忘れることに引けをとらない年代になり『今までの2倍のことを覚えれば半分忘れても許されるかな』なんてノテンキな私がいたりして…。ともあれ美しく年を重ねたいと願っている今日この頃です。」
《おまけ》白澤さんの顔写真は?「まあ替わりに血液型を言うのでナシということ。とうまくのせられてしまいました。ということで白澤さんの血液型はAB型です。」

先月号に会員インタビューが載せられませんでしたことをお詫び申し上げます



COFFEE HOUSE ~風~



俵万智の「チョコレート革命」を読みました。限られた文字の中で気持ちを表すからこそ、可能性は無限に広がります。

それをマネしてか、友達がタクシーで3800円払って家に帰った時の一句。タクシーを降りて感じる秋の風

神通研 8 月定例役員会 (8/18) 報告

報告

- 関プロ支部連絡会(7/26)が開催され、全通研運営委員増員分として神奈川から村石彰氏を推薦しました。また、関プロ集会は10/31-11/1に茨城県で開催されますが申込用紙は来月送付します。予定だけ空けておいてください。
- めざす会として他の情報提供施設を視察しました。
 - ・8/1-2 京都 竹内副会長
 - ・8/6-7 熊本 稲垣幹事
 - ・8/8-9 石川 深海会長
 また、めざす会として「ろうあセンターの管理運営変更について」の要望書を県へ提出しました。
- 神聴連との臨時合同会議が行われ、合同学習会を開催することになりました。
 - 日時 11月29日(日) 10~15時
 - 場所 サポートセンター(予定)
 - 内容 「手話通訳者の健康問題について」
 詳細については、来月お知らせします
- 第31回全通研集会在宮崎(8/21-23)の参加予定者は14名になりました。
- 今年度の会員は、8月10日現在で、266名(継続211名、新規55名)となりました。

議題

- 学習会の内容を検討しました。
 - ① 第4回学習会(10/17)の講師に松崎理恵子氏へ依頼をし、承諾を得ました。申込方法は今号同封のチラシを参照してください。
 - ② 第2回学習会は、日程を12月5日にし、「ビックな講師によるお楽しみ講演会」に相応し講師を推薦し、選定します。
- 第12回神通研集会の当日の受付、ビデオ収録担当等の協力体制を確認しました。
- 横浜市聴覚障害者協会主催の手話通訳士養成講座に神通研として協力をする事を決め、当日の体制について検討しました。
- ろうあセンター運営委員会(8/22)と定例合同会議(8/31)の出席者について検討しました。
- 「風かながわ」第151号(次号)の内容検討をしました。

98年度新会員を募集しています。
PRをお願いします

事務局より



◇ 手話通訳問題研究第65号について

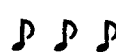
全国手話通訳問題研究会(全通研ゼツケ)発行・編集の手話通訳問題研究65号を神通研会員に送ります。98年度会員の1冊目にあたります。今回の内容は、「21世紀の手話通訳養成を考える」という特集です。まず、厚生省大臣官房障害保健福祉部企画課社会参加推進室長の三友敬太氏の冒頭インタビューで始まります。三友氏は、先日全通研宮崎大会にも参加し、聴覚障害者行政に理解のある厚生官僚ですので、ぜひともお読みください。その後、各地の取り組みと全日ろう連の松本事務局長、全通研石川副運営委員の論文が続きます。

今回は、別冊資料付きのお得号です。ぜひとも別冊も学習してください。Viewコーナーの新潟県でのろう重複障害者あさひ共同作業所の設立が報告されていますが、この8月に新潟県に降った大雨により床上浸水になってしまったそうです。全通研宮崎集会においてもカンパ受付しておりましたので、御協力できる方は神通研事務局まで連絡ください。毎度毎度お願いしていますが、「チャレンジ手話クロス」の応募をお願いします。締切りは、10月末ですのでゆっくりと解いて、応募してください。その際感想、意見も書いてください。

☆ 問い合わせは、事務局 村石まで



かながわ 西～東



『終着駅への軌跡』開催さる！！

8月7日、8日にろう演劇『終着駅への軌跡』横浜公演が開催されました。2人の語りに思わずハンカチで涙を拭う人も。終了後、参加された方々にインタビューをしました。皆さんの生の声をお聞き下さい。

『終着駅への軌跡』を観るのはこれで3回目です。今回は地元ですし内容も横浜バージョンということと、テーマは同じでも公演する場所によって内容が変わるので何回見ても飽きないと思って見にきました。期待通りとても素晴らしいかったです。横浜に関する話は一つだけでしたが、他に広島原爆の話がありましたよね。あれは圧巻でした。内容だけでなく演技にも一層磨きがかかっていて本当によかったです。

〈ろう者/女性〉

今回初めて観たのですが、非常に感動しました。ろう者の歴史について多くのことを知ることができ、大変感激しました。また、同じろう者として共感することが数多くありました。ろう者だってどんなことでもやれるんだという気持ち湧いてきて、自分もこれをきっかけに頑張っていきたいと思いました。〈ろう者/男性〉

とにかくろう者のさまざまな歴史を知り、すごいなと思いました。また、難聴者とろう者は違うんだということを芝居を見て感じました。

〈難聴者/女性〉

本当は泣きそうになったけれど、我慢してたんです。そしたら喉が痛くなってしまいました。

〈ろう者/女性〉

『終着駅への軌跡』は今日で3回目ですが、全国各地で公演しているのでそこで得たいろいろな話をもとに進めていくというやり方は、内容も少しずつ違っていき素晴らしいと思いました。ろうの歴史は那須さんが現在調べていますが、もっともっといろいろな話を披露して欲しい

と思います。

〈ろう者/男性〉

神戸から来ました。以前京都で公演があった時は都合が悪く行けませんでした。今回ラポールでやるということで来たのですが、本当に素晴らしい、初めから終わりまで自分を忘れてしまうくらい舞台上に釘付けでした。また知らなかったろうの歴史が数多くあり驚きました。本当に来てよかったと思います。〈ろう者/男性〉

劇を通していろいろなろう者の生き様に触れることができ、とても興味深かったです。米内山さんや那須さんの手話に実際の情景がだぶって、まるでTVか映画でも見ているかのような臨場感でした。

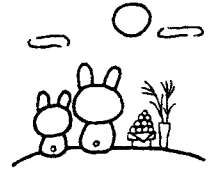
〈聴者/女性〉

2年前に初めて横浜で開催した時は、会場が狭くもっと広いところでまたやりたいということから今回の企画が持ち上がりました。米内山さん那須さんの都合上1年間待ってやっと今回の公演にこぎつけました。電車の中で死んだ男の話がありましたが、あれは本当に横浜で起こったことなんです。私もそのことは知りませんでしたし感動というよりも真実味があるというか、それまでは全国各地で起こったことを面白おかしく聞いていましたが、今回は自分の近くにもそういうろう者がいたんだという驚きがありました。また原爆に関しては映画やテレビでやっていますがろう者のことはできませんよね。でもこの公演で被爆したろう者の話を聞いて、同じろう者としてストレートに気持ちが伝わってきて大変感動しました。最後に、是非また横浜でやって欲しいという声をいただき主催者の一人として嬉しく思います。〈主催者談〉

***インタビューに関して、ろう者難聴者については手話で話してもらい8ミリビデオに録画したものを編集担当が翻訳しました。



三二情報



◆この方に心当たりありませんか

下記の方が、平成 年 月 日から行方不明になっています。心当たりの方は是非ご連絡ねがいます。

さん

- ・昭和 年 月 日生まれ
- ・身体障害者手帳2級の聴覚障害者で、コミュニケーション手段として、手話・筆談を使用
- ・腎臓病・糖尿病を抱えています
- ・自宅から不明に
- ・平成 年 月 日に の友人宅に立ち寄ったとの情報を得ています
- ・本人の写真は聴協事務所にあるチラシをご覧ください。

連絡先:

◆第5回横浜ラポール芸術市場

シネマ・マーケット

字幕付き映画上映会の予定

11月22日(日)

「愛する」 監督/脚本:熊井啓

出演:酒井美紀・渡部篤郎

12月12日(土)

「ビヨンド・サイレンス」

監督:カロリーヌ・リンク

出演:タティアーナ・トリーブ

12月13日(日)

「モスラ」 監督:米田興弘

出演:小林恵・山口紗弥加

会場:横浜ラポール ラポール・シアター

連絡先:第5回横浜ラポール芸術市場

◆神奈川県聴覚障害者連盟婦人部主催

第5回全神奈川ろうあ女性の集い

日時:10月4日(日)13:00~16:30

場所:藤沢市労働会館

参加費:会員:1,500円 記念品・福引有
非会員:2,000円 同上
(当日券は記念品有り・福引無し)

内容:◇式典

◇記念講演「アメリカろうあ者:歴史と課題」講師:中村かれん氏

◇手話落語「こぼなしいろいろ」
講師:向山秀代氏

保育:2~6才 300円

問合せ:神奈川県聴覚障害者連盟事務所気付

◆マルセル・マルソー公演

日時:9月25日~28日

(時間は日により異なりますので
お問い合わせ願います)

場所:ゆうぼうと簡易保険ホール(五反田)

入場料:S=10,000円 A=8,000円

B=6,000円 C=4,000円

前売所:チケット・セゾン、チケット・ぴあ

CNプレイガイド、緑の窓口・ぴゅうプラザ

問合せ:

編集後記

□最近夏バテ気味。寄る年波には勝てないのか…。早く涼しくな~れ!(MOON)

☆ 発 行 所	藤沢市藤沢933-2 神奈川県聴覚障害者連盟内 神奈川手話通訳問題研究会 (全通研神奈川支部)
------------------	--